

「ゾウの森」 一部オープン!

☆2月28日「ゾウの森」が一部オープンし、お披露目式が開催されました!
 ラオスから来た子ゾウたち、ブラジルバクの親子、新しく仲間入りしたハイラックスもお目見えます!



トクン(メス)
2008年2月
生まれ

ブンニユン(メス)
2010年6月
生まれ

カムバート(メス)
2010年3月
生まれ

トンカム(オス)
2011年10月
生まれ

※子ゾウの名前は現地名です。

美都(メス)
推定
1971年生まれ

～ブラジルバクの親子～
 昨年の9月25日に生まれた子ども(メス)もスクスクと成長しています!



親子の姿を見に来て
 くださいね～!

～ケープハイラックスが
 新しく仲間入り～
 安佐動物公園から4頭やって
 来ました!



オス

メス

できごと

新しい仲間

☆デンマークのイエスパー
 フス・ジャングルズーから
 3歳のヤブイヌのオスがや
 ってきました!愛称募集の
 結果、名前は「デンマル」
 に決まりました。



誕生!

☆1月25日にマンドリルの
 赤ちゃんが生まれました!
 元気なメスの赤ちゃんです。
 顔にはまだお母さんたちの
 ような模様がありません。
 愛称募集の結果、名前は
 「サマンサ」に決ま
 りました。



『2月16日撮影』

『2月22日撮影』

安らかに

★昨年の11月26日に
 ツキノワグマの「サ
 クラ」が心不全のため
 亡くなりました。
 推定39歳で日本最高
 齢でした。
 長い間ありがとう!



☆2月16日にヤギの赤ちゃんが生まれました!
 顔と体に少し模様がある方が「アラシ(オス)」
 で、お母さんと同じ真っ白な方が「ミフユ(メ
 ス)」です～
 おとぎの国にいるので会いに来てくださいね!

寄付のお知らせ

京都岡崎白川ライオンズクラブ様からベンチを、山根義公様
 からベニシダレザクラを寄贈していただきました。

ありがとうございました

ラオスから子ゾウたちが やって来た!



続・ゾウの繁殖プロジェクト



● 前回(動物園だよりNo.169)では、2頭のゾウをラオスのサイニャブリ県ホンサー市から、ピエンチャン特別市近郊の飼育地「ターバライ」に移送したところまでをお伝えしました。今回は日本に来るまでのことをお知らせします。

まずは、平成26年7月に新たにオス1頭とメス1頭がサイニャブリ県トンミーサイ市からメコン川を船で渡ってやって来ました。これですべて4頭のゾウが揃いました。

● また、ラオス国立大学、京都大学野生動物研究センター、京都市動物園の3者による連携協定を新たに結びました。これは「ゾウの繁殖プロジェクト」に関する学術交流、教育、研究分野において協同した活動を推進するためです。

そしてターバライでは、ラオス国立大学の先生とも調査・研究についての話し合いを行いました。



● 現地で練習用檻を製作し、飛行機による輸送に備えてトレーニングを開始しました。

また、輸出入にかかる事務手続きも同時に進め、ラオス国立衛生研究所の獣医師による、健康状態の確認も行われました。

● 「ゾウの繁殖プロジェクト」の関係者が集まり、ゾウの幸福や安全、繁栄を祈願する「パーシー」の儀式が執り行われました。そのおかげもあってか、これまでのトレーニングの成果を発揮し、とても順調に準備が整い、平成26年11月16日予定どおりピエンチャン特別市のワッタイ国際空港を飛び立つことができました。



関西空港から動物園へ

4頭の子ゾウたちを積んだトラックが到着です!



● 11月17日深夜0時過ぎに日本の関西国際空港に到着しました。しばらく空港で待機しているときには、初めての飛行機で緊張していたゾウ使いもホッと一息ついていました。

そして、空港での取材を終え、午前6時頃いよいよ動物園に出発です。



大型クレーンを使いゾウ舎へ



ゾウ使いに連れられ無事ゾウ舎に入る

● トンクン (メス)
2008年2月25日生まれ
穏やかで、お姉さん的な存在!

● カムパート (メス)
2010年3月14日生まれ
自由気ままで、食いしん坊!



※子ゾウの名前は現地名です。

● プンニョン (メス)
2010年6月29日生まれ
賢く控えめ、水遊びが大好き!

● トンカム (オス)
2011年10月12日生まれ
やんちゃで、頑固な性格!

● ラオスにいた頃は、村の近くの森でバナナの木や実、笹、ヤシなどを食べて暮らしていたため、日本の暮らしに馴染むだろうか? 年中暖かいラオスから日本に来て、寒くないだろうか? と随分心配しましたが、今では京都の環境にも馴染んでいます。これからも、ゾウたちが快適に暮らしていけるような環境作りを心掛け、近い将来、繁殖できるようラオスの関係者たちと協力しながら、本園での取組を進めていきます。どうぞ温かく見守ってくださいね!



ラオスのゾウ使い(※青いポロシャツ)と飼育担当者の記念撮影。ゾウ使いから子ゾウ飼育の引継ぎを行いました。

寄付のお知らせ

● 京都信用金庫様から「京都市動物園におけるゾウの繁殖プロジェクト」推進への御支援として、総額1億円(11年間)の御寄付をいただきます。

● 平成26年度は輸送費用への支援を中心として、5万円を御寄付いただきました。

● 平成27年度から平成36年度までの10年間にわたり、エサ代や調査、研究などへの支援として毎年5百万円を御寄付いただきます。

200スポット 82

長い間お世話になりました。

3月で定年退職した秋久園長にスポットをあててみました。

本年3月末をもちまして退職いたしました。動物園長として退職を迎えられましたことは、自身にとり大変光栄なことで、読者の皆様をはじめ多くの方に支えて頂いたからこそ喜んでおります。この場をお借りして御礼申し上げます。

昭和53年に京都市役所に獣医師として採用され、退職までの37年の内27年間動物園にて勤務いたしました。動物園獣医師を希望していた私にとって、長きにわたり勤務させていただいたのは至極の幸せです。

配属された頃は、姉妹都市との動物交換が多く行われており、中国の西安動物園、北朝鮮の平壤中央動物園、メキシコのグアダラハラ動物園との動物交換に関わってきました。グアダラハラ動物園には、京都市動物園で誕生したアミメキリンの「吉峰：オス」を2週間かけ太平洋を渡り船で運んだのはまたとない経験でした。背が高いことで飛行機に乗れず船で運んだのですが、今では孫の代まで多くの子孫を残してくれています。そして、ラオスから4頭の子ゾウを迎えることができたのも、奇跡的であり大きな喜びでした。これも、ラオス大使館ケントン駐日特命全権大使、在京ラオス名誉領事館大野名誉領事をはじめ、多くの方々のお力添えのおかげで実現しました。これから、ゾウの繁殖に向けしっかり取り組んでいってほしいと願っています。

現在、7年計画の共汗で作る新「京都市動物園構想」は最終年度を迎えています。一旦節目を迎えるわけですが、京都市動物園は、動物園の役割を意識しつつ、時代の流れを汲み取り進化し続けます。これからも「近くて楽しい動物園」である京都市動物園を御支援いただきますようお願いいたします。



タンザニアの野生動物を訪ねて Part10

～タンザニア研修～ 【ゴンベ・ストリーム国立公園を訪ねて!】



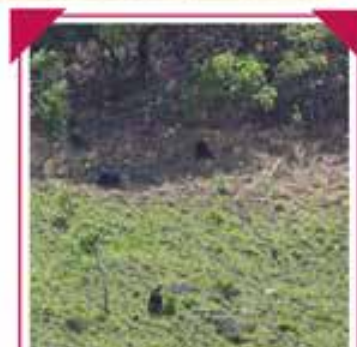
ゴンベ・ストリーム国立公園ではチンパンジーのTANGA（25歳♀）とその娘のTABORA（7歳10カ月♀）がゆっくり歩いてはお互いに毛づくろいをしてあっている様子を観察することができました。また、チンパンジーがアカコロブスを餌として狩るときに興奮した声を発している場面に遭遇し、そのおこぼれを狙って声のする方向へ20頭ほどの群れが移動していく様子も見られました。



アカコロブス



チンパンジーの親子



山を下るチンパンジーの群れ

歴史あるチンパンジーの研究の現場に行き、実際に野生動物やその生息環境を体感することができました。

研修期間 2014年9月12～21日（種の保存展示課 板東はるな）

*この研修は、京都大学野生動物研究センターと連携して行っています。

定期購読を希望される方は、82円切手4枚（1年分）を同封して京都市動物園までお申し込みください。

氏名又は名称：京都市長 門川 大作
事業所の名称：京都市動物園
事業所の所在地：京都市左京区岡崎法橋寺町126
動物取扱業の種別：展示

登録番号：070051
登録年月日：平成19年5月22日
有効期間の末日：平成29年5月21日
動物取扱責任者氏名：岡橋 要

